虎
邱
山

歴代名人題詠

王月芝選錄

虎　邱　　顏眞卿

不到東西寺於今五十春竭來從舊賞
林壑宛相親吳子多藏日秦皇厭勝辰
劍池穿萬仞盤石坐千人金氣騰爲虎
琴臺化若神登壇仰生一捨宅歎珣珉
中嶺分雙樹迴巒絕四鄰窺臨江海接
崇飾歲時新客有神仙者于茲雅麗陳
名高清遠峽文聚斗牛津跡異心甯間
聲同質豈均悠然千載後知我挹光塵

虎　邱　　陸龜蒙

◉虎邱山

王月芝（原名木田月子）編

吳中以山水勝。而虎邱最奇。虎邱一名海湧峯。高不過百尺。而巖石峻幽。古蹟昭然。天下之奇藏焉。當夫天朗氣淸。風和日麗。或命巾車。或駕扁舟。登其巔而放目遠眺之。靈巖天平鄧尉穹窿諸勝。環列如抱。峯巒起伏。若隱若現。足以擴眼界。吸新氣。心曠神怡。寵辱皆忘。有不超然物外。飄飄欲仙者乎。輓近經邑中士紳。鳩工修葺。更建冷香閣於石觀音殿之陽。繞以寒梅三百枝。山光水色。煥然一新。遊賓不遠千里而來者。四季如一日也。

虎邱山

吳地は山水の名勝を以て天下に冠たり、虎邱は其中最も佳境とす、別名を海湧峯と稱する、高さ百尺に過ぎずと雖、巖石の峻

一代先後賢聲容劇河漢況茲邁古士
復歷蒼崖寘辰經幾十萬邈與靈壽玩
海嶽尙推移都鄙固無漫羸僧下高閣
獨息沒遠岸嘯初風雨來吟餘鐘唄亂
如何鍊精魂萬祀忽欲半甯爲斷臂憂
肯作秋柏散吾聞酆宮內日月自昏旦
左右修文郎縱橫灑篇翰斯人久溟漠
得不垂慨歎庶或有神交相從重興贊

虎邱　范仲淹

昔見虎耽耽今爲佛子嚴雲寒不出寺
劍淨未離潭幽步蘿垂徑高禪雪閉庵
吳都十萬戶烟瓦巨東南

乎たる幽明の奥ゆかしき、古蹟としての價値は十分に認めらるゝ、天氣晴朗氣淸き一日、風徐に吹き來る春の麗かき一日、扁舟に竿さし、或は輕車に駕して、巔上に高く登りて見んか、遠方は是れ靈巖、天平、鄧尉の諸山にして穹隆の形狀、龍の將に氣を吐いて雲を起こさんとするに似たり、峯巒の一起一伏は隱れたるが如く現れたるが如し、啻に眼界の靈感に觸るゝのみにあらず、實に新鮮の空氣を收收せられ心曠く神怡々たり、俗界を脫して天界に遊ぶの感興を覺ゆ、近頃地方の紳士の資を集めて石觀音殿の傍に冷香閣なるものを建立せり、繞するに梅樹數百株を以てす、山光水色、煥然として面目を新たにす中外の遊客千里を遠からずして沓として來り紛として往く、まことに四季共に絕景の眺望なり。

虎邱　蘇軾

入門無平地石路穿細嶺陰風生澗壑
古木翳潭井湛盧誰復見秋水光耿耿
鐵花秀巖壁殺氣禁蛙黽幽幽生公堂
左右立頑礦當年或未信異類服精猛
胡爲百歲後仙鬼互馳騁窈然留清詩
讀者爲悲哽東軒有佳致雲水麗千頃
熙熙覽生物春意破淒冷我來屬無事
暖日相與永喜鵲翻初且愁鳶蹲落景
坐見漁樵還新月溪上影悟彼良自怡
歸田行可請

又　前人

■鴛鴦墳　入山門。沿山街北行。其西有亭翼然者。鴛鴦墓也。初崇禎時。蠡口人倪士義。負笈異地。年久不歸。妻楊氏。疑士義死。絕食而亡。士義及第歸。聞耗大悲。不久亦氣忿而死。後人義之。併葬於此。鴛鴦二字。乃崇禎帝御賜。今經邑紳重建石亭。並刊以「身膏白刃風猶烈。骨葬青山土亦香」一聯。嗚呼。可以風矣。

虎邱名勝圖一（鴛鴦坟）

白簡威猶凜青山興已濃鶴閒雲作氅
駝臥草埋峯跪履若可敎卜鄰應見容
因公問回老何處定相逢
太常齋未解不肯對纖濃只遣三千履
來遊十二峯林空得清唱潭淨寫衰容
歸去瑤臺路還應月下逢

又　前人

當年太白此相浮老守娛賓得二邱白
髮重來故人盡空餘叢桂小山幽
青蓋紅旗映玉山新詩小草落元泉風
流使者人爭看知有眞娘立道邊
舞衣歌扇轉眼空只有青山香靄中莫

▲鴛鴦墳　山門に入ると、山の麓が見える、之れに沿ふて、北の方に行くと、西の方に亭がある。そこが鴛鴦墓と云ふ、初崇禎時代に、倪士義なる人あり、求學の爲に出奔して、年久うなつても歸つて來なので、その妻の楊氏は、良人は異鄉で死んだものと思つて、以來斷食をつづけて世を去つた、ところで士義は求學の目的を達して故鄉に錦を飾つて歸ると、妻の慘死をきいて、悲しみの餘、痛恨の極、遂に不歸の客となつた、後の人々此に合葬して其夫婦の情義細やかなるを後世に傳へる爲に墓石を建立した鴛鴦の二文字は崇順帝の御賜であると、近頃地方の石士が石亭を建立し且『身蒼白刃風猶烈、骨葬青山土亦香』の一聯を附した。

■斷梁殿　沿鴛鴦墳而上。有斷梁殿。(卽今二山門)梁木中斷。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongb

共吳王鬪百草使君未敢借驚鴻

虎　邱　　方惟深

晉人事高曠所得多奇僻雲巖佛子廬
曾爲二王宅當時槃樂地俯仰成今昔
林泉亦余好徘徊想遺跡那知非昔人
復作登臨客

虎　邱　　鄭思肖

何年海湧來霹靂破地脈裂透千仞深
嵌空削蒼壁山潤石乳甘秋冷鐵花碧
闔闢雲空愁銀虎去無迹蛟龍鎮奇險
拱護梵王宅

虎　邱　　王　賓

而堅固異常。殿爲乾隆南巡時所倣造。工匠錯配木料。幾難落成。幸有異人指點。方得竣工。

▲斷樑殿　右の比翼塚に沿ふて上ると、斷樑殿と云ふのがある、今は三山門である、樑の中央が二つに斷たれてある、が餘程堅固で、此殿は乾隆皇帝の南巡せられし折に命令して建造せられしものである、建築の際に非常に骨を折つたそうだが、當時外人の指

虎邱名勝圖二（斷樑殿）

歇馬來遊得幾春留詩嚴壁爲何人長生心慕神仙侶終不貧生逢逆臣

虎邱　文徵明

雲巖四月野棠開無數清陰覆綠苔意到不嫌山近郭春歸聊與客登臺芳墳誰識眞娘在水品曾遭陸羽來滿路碧烟風自散月中徐棹酒船回

虎邱　祝允明

春光滿郊野吾獨愛西邱碧水一池定白雲千頃流散人歌小海幼伎撥箜篌遠著謝公屐高登王粲樓人生一杯酒又是一年遊

圖で竣工しられたと云ふことである。

■憨憨泉　過斷樑殿。不數十步。道旁有小屋一椽。繞鐵網作障者。爲憨憨泉。係梁時憨憨尊者。指點而成。泉水甘冽。飲之可以去病云。

▲憨憨泉　斷樑殿を過ぎること十步で道傍に小さい家屋の椽がある鐵條網で繞らしてあるが、それがこれである、梁の時代に憨憨尊なるものが、指圖し

虎邱名勝圖三（憨憨泉）

又

醉扶紅袖上飛樓又是新年第一遊欲
檄詩腸重進酒誤將鐵笋觸空候

虎邱　唐寅

朱明麗景屬炎州蘭槳桂檝遂娛游逐
蔭追飄暫容與回波轉藻若夷猶日承
綺扇釵光發山入仙杯酒氣柔幸莫瑤
麾論所願皓首期言伏此邱

虎邱　王世貞

風至開山閣雲歸臥佛牀薄岩施屐易
疎竹進杯涼醉益狂奴態游偏傲吏長
興酣忝莫舞秋色起干將

て出來上つたので、泉の水は甘味を帶びてゐる之れを飲めば百病癒ゆと傳へられてゐる。

■眞娘墓　自枕石拾階而上。斷碣一塊。矗然映於眼簾者。眞娘墓也。眞娘爲吳名妓。胡其姓。瑞珍其名。父爲官淸廉。被奸徒陷害死。瑞珍弱質無依。流落爲妓。然琴棋書畫。無所不工。而冰心貞操。無異閨秀。客至。作長談而已。一

虎邱名勝圖四（眞孃墓）

虎邱　董其昌

生公臺上雨花新。時菊霜楓映畫輪。終古金銀沉夜壑。何年風雨笑延津。性如元度耽名理。宦似王宏愛酒人。若道虎谿同虎阜。應知頑石點頭頻。

虎邱　王衡

木末巳蒼然。微陽掛客船。雅歸人影外。鳥宿塔燈前。宴坐經行地。默參歌舞禪。厭厭清夜永。月到可中圓。

虎邱　梅鼎祚

未作五湖游。先來問虎邱。一峯傳海湧。片石儼星浮。塔散珠光曉。池含劍氣秋。日。有客至。堅請留宿。瑞珍許以來日。客翌日復來。而瑞珍已投環自盡。一縷芳魂。追隨阿父去矣。客哀之。爲築墓於此。題名眞娘墓。

▲眞娘墓　右枕石のほとりを上ると、轟然として吾人の眼に映るものがある、乃眞娘墓である彼女は吳の名妓で姓は胡、名を瑞珍と云ふ、父は官吏として廉直な人であつたが、奸人に陷し入れられて、殺害された、娘の彼れは落魄して妓となつた、彼女は書畫や彈琴の道にも巧みで泥中の蓮とでも云はうか、まことに得難い名妓となつた、また一生を通じて貞女を守つた客人の至つては長夜に雅談をするのみである某日客人の來つて同宿を要求したが彼女は明日來るべきやうに云つたので其人は翌くる日來て見ると、豈計らんや彼女は自盡を遂げてゐた、一縷芳

且無催喚酒茶盌客能留

劍池　李峴

闔閭葬日勞人力嬴政穿來役鬼功澄碧尙疑神物在等閒雷雨起潭中

劍池　來鵠

秋水蓮花三四枝我來慷慨步遲遲不決浮雲斬邪佞直成龍去欲何爲

劍池　朱長文

萬丈澄潭挾兩崖削成奇壁自天開龍泉一淬名因得不待秦皇發塚來

劍池　楊備

三尺龍盤古到今波光凝碧暮雲深沉魂は父の跡を追ふて黃泉に去つたのである、客人其心を惻みて此に碑を立てたのがそれである。

□生公講台　千人石之北。有生公講台。李陽冰篆書四字。淸晰可辨。或云爲蔡襄所書。無可攷矣。

▲生公講台　千人石の北方に、生公講台がある、李陽冰が四字を篆書したのだと、晰淸よく認めらる。

虎邱名勝圖五（生公講臺）

絲不斷應無底山脚池心徹海心

劍池　方惟深

雲崖倚天開蒼淵下澄徹世傳靈劍飛山石千丈裂神蹤去不返今作蛟龍穴是非澄難詰歲久多異說惟當清夜來靜賞潭上月

劍池　徐輔

劍去池空一水寒遊人到此憑闌干年來世事消磨盡只有青山依舊看

劍池　范成大

石罅淵渟劍氣潛誰將樓閣苦莊嚴只知暝熱遊人眼不道蒼藤翠木嫌

□千人石　山之腰。有大盤石。曰千人石。相傳列國年間。吳王雇匠千人。興工築墳。墳成。恐露祕密。設計盡誘工匠於此而殺之。後人遂名此石曰千人石。一說此石可容千人。故名。旁有淨土橋。爲僧宗洗所建。

▲千人石　山の中央腰間に、大盤石がある、千人石と云ふ、列國年間に吳王千人の石工を雇ひ、墓を造らしめた、墓石成るに及びて、其計劃が祕密であるので、

虎邱名勝圖六（千人石）

劍池　方琛

裂破幽崖續古苔一泓俯瞰石房開轆轤竟日知無盡泉脈元從海底來

劍池　林景熙

鑿開神斧是何年珠雁金鳧鎖冷烟薜荔帶雲懸古木轆轤卷月出秋泉岩前洗劍精疑伏林下烹泉味亦禪高倚石闌清嘯發恐驚池底老龍眠

劍池　周文英

澗泉一脈古今清試劍秦皇曾未曾不解爲霖作雲雨煎茶者筍餉山僧

劍池　楊維禎

他に知られるのを、恐れて此等一千人の石工を皆殺しにしたと、後に千人石と名づけたが、或は一千の人が坐し得られるからそう名づけたとも傳へてゐる、淨土橋と云ふ橋がそばにある、僧人宗洗が建造したのである。

■枕石　與試劍石隔道而峙者。曰枕石。昔唐寅秋香。巧値於此。枕石題詩。千古傳爲佳話。枕石。一名蜒蜒石。取形似而已。

虎邱名勝圖七（枕石）

虎邱山

金精夜伏觸孤游東國山川霸氣收開倚貞娘墳上樹落花飛滿闔閭邱

劍池　鄭韶

殘雪落林度西嶺陰澗寒泉凝素綆兩僧倚樹聽微鐘一鶴臨流照清影松間旭日映山椒白雲莫莫如雨飄何當爲置玉麈詰更添一樹紅芭蕉

劍池　顧仲瑛

地坼重淵積人匹寶劍藏千年斷崖月何處照龍光

劍池　朱德潤

蔓木叢篁古梵寒鑿開崖竇見波瀾莫

▲枕石　試劍石と一路を隔て、相對峙してゐる、古昔唐時代に寅秋香なるもの此に巧みに色香を欲しいまゝ、にしたと枕石の題詩千古の傳說ごある又の名を蜒蟮石と云ふ。

■點頭石　白蓮池旁。有點頭石。晉生公和尙說法時。人無信者。乃聚石爲徒。宣講禪理。頑石皆點頭示意云。

虎邱名勝圖八（點頭石）

▲點頭石　白蓮池の傍にある、晉の生公和尙說法の時、人の信

邪久作蒼龍去猶作東吳劍氣看

劍池　周伯琦

雪色於菟踞林邱石池白晝劍光愁千年雲氣常封閟山石鑿鑿池不流

劍池　文徵明

吳王埋玉幾千年水落池空得墓磚地下誰曾求寶劍眼中我已見桑田金鳧寂寞隨塵刼石闕分明有洞天安得元之論往事滿山寒日散蒼烟

又　前人

舍舟卽欲崎探策入窈窕窮崖擘蒼鐵直下千尋表絕磴懸飛梁仰首心欲悼

じる者が無かつたので、石を聚めて門徒となし禪理を宣講してゐると、頑固な石が皆頭を垂れて聽意を示したとある。

■白蓮池　講台之下。有周可百步之池。名白蓮池。生公說法。時値嚴冬。而池生千葉蓮花。潔白如雪。名雪蓮。白蓮池之名。以此。

▲白蓮池　講台の下に周圍百步大の池水がある、生公の法を說く時に嚴冬の頃、池に千葉の蓮花が

虎邱名勝圖九（白蓮池）

陰壑多長風六月更幽悄秋聲落井幹
翠雨滴深篠與君當間懷竟日恣幽討
都將雙足塵濯向千年沼

試劍石　周弼

吳王鑄劍成自謂古難比試之高山嶺
不裂斷橫理那無昔時人相逢干將里
故宮宮中白日長春風野田百草香有
誰慷慨不平事披褐踏花推酒缸

試劍石　楊維禎

新鑄干將砧石頭剛風吹下海峯秋誰
知越貢湛盧劍已遂飛龍漢水遊

試劍石　顧阿瑛

發生した潔白純色雪のやうである雪蓮と名づく、白蓮池の名稱之に因る。

■試劍石　憨憨泉之東。有石中分如截者。卽試劍石。列國年間。干將莫邪。練雌雄劍獻吳王。王劈石試之。石分爲二。或云。秦皇掘得吳殉劍而試之。未知孰是。

▲試劍石　右の泉の東にある、石の中央が截然と分れて居る、乃ち試劍石

虎邱名勝圖十（試劍石）

劍試一痕秋崖傾水斷流如何百年幾不斬趙高頭

試劍石　高起

劍斷雲根殺氣橫鐵花羞澀蘚花生祖龍莫詫神鋒利別有會令白帝驚

試劍石　馬世奇

香徑生塵茂苑虛金精猶想霸圖餘可憐說劍終無術不賜夷光賜子胥

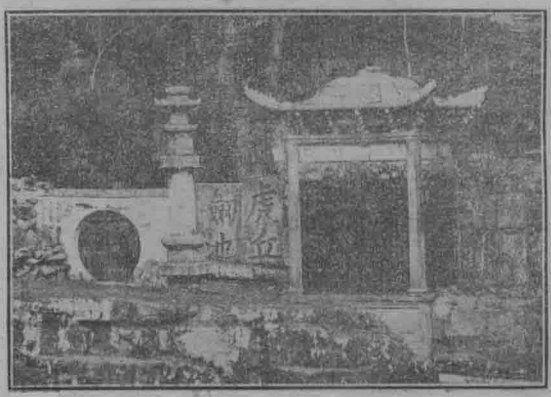
試劍石　徵輿

白虎驚秦帝干將去楚王空餘一片石夜夜月如霜

千人坐　方惟深

である、戰國時代に干將莫邪が雌雄劍を練磨して吳王に獻上した、王は之れを以て石を割つたが、截然と二つに切られたと、また秦皇が掘り出して得た吳の殉した時用ひた劍で、之れを以て石を切つたとも傳へられてゐる、何れが眞か何れが僞か判明せぬ。

■二仙亭　二仙亭在千人石北。中有大石碑二。刊純陽陳摶二祖師肖像。古衣古貌。栩栩如生。亭外



虎邱名勝圖十一（二仙亭）

生公天人師講法花雨墮當時聽法衆
片石千人坐山祇常護持山鳥不敢汚
野人心茫然傲蕩多酒過醉來不肯歸
石上看雲臥

千人坐　范成大

聽經人散蘚花深千百誰能更賞音只
好岸巾披鶴氅風清月白坐彈琴

千人坐　楊備

海上名山卽虎邱生公遺蹟至今留當
年設法千人坐曾見岩邊石點頭

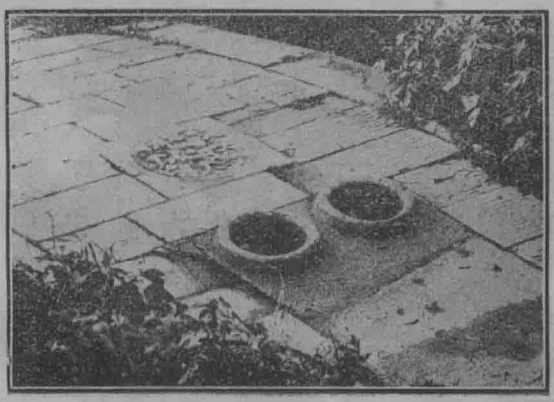
千人坐　高啓

池上盤陀石千人列坐曾如今趺夜月

石柱上。有「昔日岳陽曾顯跡。今朝虎邱再留蹤」之句。爲後人所刊。亦所以誌鴻爪耳。

▲二仙亭　二仙亭千人石の北に在る、中に大石碑が二つある。純陽陳摶二祖師の肖像が刊刻せられてある、古衣古貌、栩々焉として活けるやうである、亭外石柱上に一句あり曰く

昔日岳陽曾顯跡
今朝虎邱再留蹤



虎邱名勝圖十二（雙吊桶）